

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年2月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100039
法人名	株式会社 ライフサポート吉満
事業所名	グループホームみどり
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町3561番地 (電話) 099-295-7333
自己評価作成日	平成31年1月26日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・閑静な住宅街の一角に建つ木造平屋建て2ユニットの施設です。ホームの中庭には広いウッドデッキがあり利用者様と職員と一緒に活動できるようにしています。
 ・施設内にはシアタールーム(喫茶スペースとしても利用可能)を備えており、希望に応じて映画の上映やカラオケなどを開催し、利用者の趣味活動にも対応しています。
 ・協力病院や看・介護職員で24時間体制の医療連携を図る事で、日々安心した生活が送れるよう支援しています。
 ・ホーム外活動に力を入れており、定期的なドライブの実施や地域行事への参加を利用者様と可能な限り一緒に参加しています。
 ・重度化への対応として入浴リフトを導入し、身体機能の低下した利用者でも浴槽に浸かれるように支援し入浴を楽しんで頂けるように努めています。
 ・職員一人一人が利用者の「その人らしさ」に着目し、個々のペースでゆっくりと生活できるように日々心掛けています。
 ・来訪者への挨拶を行い、いつでも来やすい雰囲気作りに努めています。
 ・地域との(他事業所)連携を通して情報交換会を行いながら地域に根づく施設作りを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事務所に「介護理念」と「経営理念」を掲示し、毎朝唱和することで意識付けを図り、日々の支援につなげている。特に利用者との信頼関係が大切との認識から、日々の見守りや声かけ、会話を多くするよう努めるとともに、何気ない仕草等からも思いを汲み取る努力をしている。
 職員の意見を聞く機会として、毎月の職員会議やユニット主任による個別面談があり、昨年はアンケートも取り、意見や提案を管理者会議で報告・確認した。職員会議では、必ず一言は意見や思いを発言してもらうようにすることで、利用者への支援の工夫や改善、また、職員の考えを管理者が把握しておく機会としている。
 年2回、風水害に対する災害訓練を、夜間想定を含め実施しているほか、年4回程度、避難経路の確認等自主訓練も実施している。運営推進会議で、災害時には地域住民の協力が必要との意見が出たため、地域住民に災害訓練への参加を呼び掛けた。知識と技術向上のため、救命救急の講習会に参加したり、AEDを導入することを予定している。
 利用者や家族が意見を出しやすいよう、各居室に「意見ノート」を置き、自由に記入してもらいケアに反映させている。また、毎月園だより「みどり通信」を家族に送付し近況を伝えることで、意見や感想を聞かせることができ、要望を出してもらおう機会につながられている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者主体のケアを目指し、地域の中で安心・安全に暮らせ地域住民の一員であることを大切に、朝礼時に理念を暗唱し理念の情報共有を図っている。	理念に「心と気持ちに沿ったサービス提供」「敬愛」等の文言を盛り込み、利用者との信頼関係の構築のため、日々のコミュニケーションを大切に考え、職員間で共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し定期的な地域の行事（研修・運動会や夏祭り・棒踊り）等へ職員と一緒に参加をしている。また地域密着型近隣施設との協議会へ参加し意見交換等を行っている。	公民館長より地域行事の案内を受けたり、棒踊り見物やハーブ演奏会の実施、福祉フェスタを運営する地域ケア交流会や地域密着施設の集まりである「よかど会」主催の研修会に参加するなど、地域とのつながりを大切に考え積極的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域住民の会及び運営推進会議等で施設の事業概要を説明し、認知症の理解を深めている。介護や認知症についての相談窓口も随時相談を受けられるようにしている。また近隣施設と連携し会を立ち上げ地域への貢献。参画について検討している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・地域公民館長・長寿あんしん相談センターの方々を構成員として収集し、ホーム運営・取り組み状況について報告している。またご意見等について会議等報告し日々のケア繋げている。	会議には家族代表や民生委員、長寿あんしんセンターの職員等が参加し、利用者の状況や活動内容の報告、意見交換を行っている。参加者から、緊急時に地域住民の協力が必要との意見が出されたため、近隣住宅を回り、防災訓練への参加の呼びかけを行った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年一回の介護相談員の訪問もあり、入居者個別の意見を聞くことでサービスの向上に繋げている。また、法令や行政サービス等で不明な点があれば、市の担当部署にこまめに質問、相談している。	要介護認定申請や対応に苦慮した時等、こまめに行政に足を運び、相談助言をもらっている。また、行政主催の研修会に参加したり、介護相談員の訪問により意見をもらうなど、日頃から連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を設置。身体拘束を行わないケアの取り組み実施。月一回会議を行うことで、身体拘束を行わないケアの共有が図られている。また見守り体制を強化したり、玄関の扉に鈴をつけて音が鳴るようにしたりして、日中の玄関の常時開錠に取り組んでいる。	リスクマネジメント委員会による話し合いを毎月実施し、利用者全員の支援方法について確認している。一人で出かけてしまうことのないよう、日常的に見守りや声かけを徹底させているほか、万一に備え、近隣者にも事業所の特性を説明し理解を求めている。また、言葉による拘束についても繰り返し確認しており、日々、受容と傾聴に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会や、社外研修の受講を通して、虐待防止に向けた職員の意識向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加を行い、フィードバック研修会実施、職員全体に浸透させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に契約書及び重要事項説明書の内容を、十分に時間をかけて説明をしている。また疑問点や不安な点などについて、利用者や家族が納得し安心してご利用頂けるように質疑応答も随時行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会等において要望など自由に意見交換が出来るように努めている。居室には個々に意見ノートを置き家族等からの意見を言える対策を講じている。	本人や家族が意見を出しやすいよう、各居室に意見ノートを置き、自由に記入してもらっている。また、家族が面会に訪れた際は、必ず利用者の近況を報告し、意見を求めるほか、年1回食事会を兼ねた家族会を実施することで意見の出しやすい関係作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアカンファレンスや職員・処遇会議等で職員からの意見や提案を聞く機会を設け、職員同士がそれについて意見交換をすることで、より良い運営に繋げるよう努力している。また日頃から職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案がなにか問いかけを行っている。	管理者やユニット主任が個々の職員の意見を聞き取るとともに、職員会議では全員が意見を述べることで職員の考え方や提案を汲み取るようにしている。また、昨年は職員全員にアンケートを取り、事業所運営や処遇について意見を求め反映につなげることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力、資格、リーダーシップなどを評価する人事考課を実施している。毎月の会議にて職場環境及び処遇・就業規則等の見直しなど状況に応じた整備に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的にテーマを定めた社内勉強会を行う事により、職員一人一人の知識、技術の向上を図っている。また職員会議等にてケアについての検討会を実施ケアの統一を図っている。個々人の経験や能力に応じた社外研修にも参加できるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者(地域密着型施設)等とのネットワークづくりが出来ており定期的な意見交換会などへ積極的に参加し、独自の研修会などへ職員参加を促し交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員が、入居に至るまでの間、本人の自宅や入院先を訪問し面談を行っている。面談を通じて信頼関係を構築し、本人の要望・悩みなどを引き出せるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員が、入居に至るまでの間、家族とのコミュニケーションを緊密に取ることに努めている。面談や電話連絡等を通じて信頼関係を構築し、家族の要望、不安点などを引き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	積極的な対話と観察を心がけ、本人の状態に応じた必要な支援を提供できるよう努めている。また場合によっては他のサービスも利用できるよう、他事業所との連携も図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「出来る事」に着目し、その人らしさが十分活かされるような日常的な関わりを心がけている（服への関心が高い利用者には洗濯物を畳んでもらう等）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を面会時や電話連絡時、ホーム便りなどでこまめに家族へ知らせている。本人にとって家族の援助が必要なときは、協力を仰ぎながら一緒に支援を進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の馴染みのかかりつけ医、主治医の治療を希望される場合は、その関係が途切れないように継続した治療援助を行っている。また来客者への挨拶や接遇について職員に指導し馴染みの友人・知人が訪問しやすいような和やかな雰囲気施設の施設であるよう努めている。	これまでの馴染みの関係を把握し、電話や手紙の取り次ぎ、訪問等、家族と職員が協力し合い支援している。自宅に帰りたい意向を確認した場合は、本人や家族とよく話し合い、可能な限り思いが叶えられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士が楽しめる空間作りに努めている。レクリエーションや外出行事等への参加を促し、入居者間の交流が出来るように努めている。トラブルが起きそうな場合には利用者同士の関係が悪化しないよう職員が間に入り、援助を行うよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態変化や長期加療により退去になる場合がある。定期的に入院先へお見舞いに行き、状態把握に努めるなど、継続的な関わりを大切にしている。状態が安定し、再入居の希望があるときは、再入居に向けての援助も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でこまめに生活や暮らし方についての希望をヒアリングしている。ご自分の希望を表現するのが困難な利用者に対しては、本人の仕草や表情から好みを読み取ったり、家族とのヒアリングを通して本人本位の援助が提供できるように努めている。	表情や仕草等の変化に気付けるよう、日々見守りや声かけを多くすることで信頼関係を築いている。把握した利用者の思いは、職員が自由に記入できる「連絡ノート」を用い、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時、本人や家族よりヒアリングを行い、フェースシートに記載している。その情報は全職員で共有し、把握するようにしている。以前のサービス利用については、関係者や当該事業者と連携を図り、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で本人の生活パターンを知り、職員間で情報交換を行い、本人の生活に合わせて出来る事を会議等で検討しケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医等の医療関係者を含め、本人や家族、職員と話し合いながら十分なアセスメントを行っている。その際に出た本人や家族の希望、関係職員の意見がケアプランに具体的に反映されるようにしている。定期的なモニタリングを行い見直しを行っている。実際のケアとケアプランに違いがないかチェックして、本人や家族の要望をしっかりと聞き、ケアプランの評価を行っている。状態変化時、必要な際には適宜変更している	利用者や家族の思いを基に、ケアチェック表によるモニタリングや毎月の処遇会議で話し合われた意見に加え、主治医の意見も参考にしながらケアプランを作成している。また、退院後等、状態に変化がみられた場合は、速やかに話し合い、現状に即したケアプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇確認表には食事、排せつ、バイタル等を記入し、個別のケース記録には日々の様子等を記載している。また毎日の申し送りでもケアの実践・結果、気づきや工夫等を話し合い、情報を共有しながら状態変化や現状の把握に努め、統一した処遇が行えるようにしている。必要に応じて介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、外出・外泊の支援、病院受診、入退院、事務手続きの代行など柔軟な支援を行っている。またニーズに応じて外部サービスの利用も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員や町内会長、長寿あんしん相談センター等と意見交換できる機会を設けている。地域の消防分遣隊長立ち合いの下、定期的な防災訓練を行っている。定期的に地域のボランティアを招き、歌や踊り、吹奏楽、棒踊りなど披露して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が主治医が主であるが、原則としては利用者とその家族の希望した医療機関をかかりつけ医とし、継続的な治療を受けられるよう支援している。	入居後も本人や家族の希望する医療機関を受診できるよう、家族と職員が協力し受診を支援している。また、協力医療機関による訪問診療も受けられ、毎日の安心につながっている。受診内容は連絡ノートに記録し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに勤務する看護職員が日常的な医療面の管理を行い、日頃から予防看護に努めている他、協力病院の看護師にも気軽に相談しながら、日常の健康管理や受診の援助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ソーシャルワーカーや病院関係者と連携を図り、入院が必要な際には情報提供を行っている。また、入院中も定期的に面会に行き、本人の状態を把握するとともに、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や看取りについては、定期的に内部又は外部研修を通じて研修を行っている。入所者様に関しては入居契約時に大まかな方向性を確認している。その後、重度化した方については、家族と関係者にて状態把握に努め、随時方向性などの検討を行っている。本人や家族との話し合いの中で事業所としてできること・できないことを十分に説明し、納得したケアが提供できるようにしている	重度化や看取りの対応については、指針を整備し、入所時に本人や家族に説明して理解と同意を得ている。重度化した場合、主治医や家族、関係者で十分な話し合いを行い、可能な限り希望に沿った支援に取り組んでいる。現在、職員体制の関係で看取りは難しい状態であるが、体制を整えば対応は可能と考え、重度化や看取りに関する研修会を定期的に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、マニュアルを作成し誤嚥・転倒骨折の対応、救急車対応の勉強会を専門職が中心となり職員会議等で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間計画で、消防訓練や防災訓練（風水害、台風対策）を定期的に行っている。また、夜間想定訓練を行い、地域住民にも参加を呼び掛けている。消防訓練では、火災報知器・警報器の取扱い、消火器の使用方法、避難誘導の方法を勉強している。緊急連絡網を全職員に配布し、連絡体制も整えている。</p>	<p>夜間想定を含む災害訓練を年2回実施するほか、年に4回程度、避難経路の確認等、自主訓練を実施している。地域住民に訓練への参加を呼び掛けているものの実現には至っておらず、今後も呼びかけを続け、地域との協力体制を強化したいと考えている。備蓄は、約3日分の食料と飲料水を確保している。</p>	<p>地域の消防団との連携も検討されたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、その人らしさを尊重し、敬いの念を持って対応するように心掛けている。定期的にプライバシーについて研修を行い、プライバシーに配慮した対応・対策を検討し支援に努めている。	認知症の理解や接遇に関する勉強会を法人内研修として実施しており、トイレへの声かけや入浴の際は、特に羞恥心に配慮した対応に努めている。ポータブルトイレの管理についても、日中使わない時は、人目に触れないよう別の場所で管理するなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力やペースに合わせた、丁寧ではっきり分かりやすい言葉掛けや説明を行い、一緒に過ごす時間や会話の中で、入居者の希望や関心、好み等を引き出せるような雰囲気作りに努めている。本人が思いや希望を表出したり、自己決定する事が出来るように声掛け対応を検討し、それらの希望や決定に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まり事や都合で業務を進めていくのではなく、一人ひとりの状態やペースに合わせて自己選択・自己決定できるよう声掛けを行い希望に沿った支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人ひとり自分に合った好きな髪形や服装、おしゃれや化粧が自己選択・自己決定できるように支援している。理美容に関しては2か月に1回、移動理美容室を利用している。希望があれば、馴染みの理美容院が利用できるよう外出支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的な思考調査を実施し入居者様お一人おひとりの状態・好みに応じた献立作りに努めている。また配膳や下膳、台拭き、食器洗い等、一人ひとりの希望や能力を活かしながら、可能な限り、入居者と職員と一緒に準備や片付け、食事ができるように体制を整えている。	調理師が当日メニューを決めており、食べたい物のリクエストにも応えている。毎月、給食委員会が利用者個々の状態を確認し、食事形態に工夫を凝らしている。また、敬老会やクリスマス等、季節感にも配慮したメニューを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの嚥下の身体機能や便秘・下痢等の健康状態に合わせた食事形態や調理方法を行うようになっている。また、摂取量や水分量の把握ができるよう個別処遇確認表に記入し、しっかり確保できているか確認している。情報を基にメニュー考案等も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの口腔状態や力に応じて、毎食後に歯磨きや入れ歯の手入れ、うがい等を支援し、口の中の汚れや臭いが生じないように日常的な清潔保持に努めている。また必要に応じて歯科医との連携を図り情報共有しながら治療や歯科衛生士の指導・助言を受け実践に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じて排泄用具(リハビリパンツ等)を使用しているが、出来る限りおむつを使用しないで済むようご本人の排泄パターンの把握に努め、能力や状態に応じて、トイレでの排泄の自立を目指している。また、訴えが出来ない方へは、定期的な声掛けトイレ誘導を行っている。	夜間は容量の多いパットを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、状況に応じて変化を持たせることで、可能な限り自然な排泄ができるよう支援している。また、汚染による不快のないよう、パットの固定にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく緩下剤にたよることなく、普段から便秘予防のために、水分補給を促したり、食事やおやつに食物繊維の豊富な食材を取り入れる等、飲食物の工夫をしている。またここに応じてホーム内で出来る軽運動等も生活リハビリに取り入れ便秘解消、予防に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は設定されているが、入居者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう努めている。重度化して個浴に浸けられない方の為に安心して入浴できるようにリフトを導入し、個々の状態に応じてリフトでの入浴を支援している。今までなかなか浸かる事が出来なかった方からも大変好評を頂いている。	入浴日を週4回設け、必ず2回は入浴してもらっている。入浴日以外でも、汚染時等、随時対応しており、シャワー浴や足浴も支援している。リフトを設置しているため、重度化した場合も浴槽に浸かることができるなど、個々に対応が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりのその時々睡眠状態に応じて、いつでも好きな時に自由に休息したり、眠れるように、居室以外にもたたみ部屋を活用して安眠や休息の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解するために、冊子を作成し、閲覧できるようにしている。服用の際はしっかりと最後まで服薬の確認を行い、薬に変更があった場合や症状に変化があった場合には、記録に残すようにし、職員全体が共有できるようにしている。また、服薬変更時は家族へ連絡や報告も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや外出、テレビ番組、新聞も定期購読や洗濯物たたみ、本人の趣味を生かした裁縫等、入居者一人ひとりが役割や楽しみごとを見つけ、喜びのある日々を過ごせるように支援している。夏場は中庭デッキで夕涼み会を開催し、皆で歌を歌ったり、レクリエーションをしたりして楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ等、外出予定日が決まっているが、ホームの中だけで過ごさずに、本人の希望によって買い物や近所へ出掛けて楽しめるよう心がけている。また、本人や家族の希望で外出や外泊をしたりと家族の協力・理解の下故郷訪問実施、年末年始には墓参り等で実家に帰省されたりもする。外出の機会を多く持つように努めている。	重度化や職員数の関係等により、大勢での外出は難しくなっているが、気分転換が図れるよう、可能な限り外出する機会を設けている。昨年は図書館や水族館、道の駅や石橋公園に出かける等、外気浴を楽しむことができた。歩行が難しい利用者には、車椅子や車椅子対応車で出かける等、個々に応じて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望があれば、十分な説明の下、お金を所持したり使えるように支援する体制は出来ているが、お金がきっかけで妄想が出現する方もおられ、お金を所持はしていても、実際使う機会は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に手紙やハガキでのやり取りができるように支援している。利用者がいつでも自由に電話をかけられるようにホーム内に公衆電話を設置している。電話番号を押せない方は職員が援助している。携帯電話の持ち込みも可能としている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備には気を付け、直射日光を避けると共に、室温調整や換気も十分にを行い、心身ともに安心して生活して頂けるよう配慮している。レクリエーションで作成した季節感のある作品や外出の際の写真をホールに飾りつけ、掲示している。また、季節感を出すために冬場はたたみ部屋にこたつを設置し、入居者様が自由に利用できるようにしている。	フロアの天井は高く、明るく開放的であり、季節毎の利用者の作品や行事の写真が飾られている。普段、各ユニットは扉で仕切られているが、開放することで自由に行き来できる造りになっている。また、たたみスペースにはこたつやソファが置かれ、利用者同士で洗濯物をたたむ等、自由に利用できる、くつろげるスペースとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者個々のニーズに対応できるよう食堂ホール以外に娛樂室や和室、中庭デッキに椅子を準備し、自由に利用して頂くようにしている。仲の良い利用者同士が楽しく安心して頂けるように空間作りを心掛けている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族とよく相談しながら、使い慣れた家具等を持参して頂き、本人が居心地良く安心して過ごせるように配慮している。また、家族との写真や外出時の写真、レクリエーションでの作品等を掲示できるようにしている。装飾品などの配置も本人の希望に沿うよう努めている。</p>	<p>エアコンやベッド（一部介護用ベッド）、棚が備え付けられ、テレビや位牌等の持ち込みも自由である。冷蔵庫を持ち込まれている利用者もあり、自宅に近い環境で生活することができる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>いつでも中庭やウッドデッキへ出られる環境である。中庭デッキでは歩行訓練を実施したり、利用者同士が集えるような環境を作っている。建物内部の必要箇所には手すりを設置。一人ひとりの身体状況に応じて、ベッドの位置や福祉用具の活用等、安心、安全で自立した生活が送れるように支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない